コドモノスケッチ帖

動物園にて

竹久夢二

青空文庫

太郎「鶴がカアカアつて啼いてるの、あれ泣いてるんですか、おぢさん」

おぢさん「泣てるんぢやない、うれしくて歌つてるんです。ほらあの雄の鶴がカアつていうとすぐ雌の鶴がカアカアつていうだろう。そら、ね。カア、カアカア、カア、カアカアつてね」

太郎「おかしいなあ、それぢや二疋で合奏してるんですねえ」

おぢさん「ほうら、また向でもはじめた」

お山の　お山の　兎太郎さん
お前の耳は　　なぜ長い。
枇杷の若葉をたべたので
それゆへお耳が長ござる。

お山の　お山の　兎太郎さん
何がそんなに怖ござる。
びつくり草ではないけれど
私は風が怖ござる。

太郎「おまへは虎の従兄なのかへ」

へう「へ、まあそんなもんです。これでも昔は兄弟だつたんですがね。加藤清正公が朝鮮征伐にいらした時、私の先祖が道案内をしたので、そのお礼に清正公の紋所をこうして身体へつけて下すつて代々まあこうして宝物にしてゐるやうなわけですよ」

太郎「なるほどそうかねえ、道理で清正の紋とおんなじだとおもつたよ」

梟は何も言はぬ。

世界中の子供がみんな眠つた時
お月様何してる、お星様何してる。
夜、眼の見える梟は
知つてるくせに何も言はない。
昔、「う」のお母さんが子供を産む時、近所に火事があつたんで、たべかけてゐた魚を「う呑」にして逃だしたさうです。ほんとだかどうだか知りません。うそだと思つたら先生に訊いてごらん。先生が御存じなかつたら「う」に聴いてごらんなさい。
黒猫「おまへさんなんざあ器量は好いし、おとなしいから人に可愛がられて幸福といふものさ」
斑猫「あらまあ、あんなことを、おなじ猫でも女になんぞ生れてはつまりませんわ」
黒猫「どうしてなか〳〵、私なんざあ、自分で自分の糊口をしなきやあならないんですからやりきれやせんや」
斑猫「それだから結構ですわ。夜なんかでも、あなたは毛色がお黒いから鼻の頭へ御飯粒をくつつけて口をあいてゐれば鼠さんは黒い所に白いものがあるので喜こんで食べに来ると食べられるつていふぢやございませんか。そんなことはとても私たちには出来ませんわ」

雪の降る日は
べにす※め
紅い木の実が
たべたさに
そつと出て見る
いぢらしさ。

太郎「おぢさん狐は化しませんか」
動物園のおぢさん「私はまだ化された事はない」
太郎「おぢさん、この狐は雄と雌ですか」
おぢさん「さうです」
太郎「それぢや、狐のお嫁入の時雨が降りましたか」
おぢさん「この狐たちは動物園へ来るまへにもう嫁いりしたのです」
何時来て見ても
泣いてゐる。
何が悲しゆて
お泣きやるぞ。
悲しいことはないけれど
生れ故郷が
なつかしい。
……たべてもすぐにかへらずに
ぽつぽつぽつとないて遊べ……

……いつしよに遊ぼとおもへども
下駄や足駄の坊ちやんに
足を踏まれて痛いゆへ
屋根のうへから見てゐましよ……
一疋の小猿が「おれのお父様はおまへ豪んだぜ、兎と喧嘩をして勝つたよ」と言ひました。すると他の小猿が「おれの父様はもつと豪いや、鬼ヶ島を征伐にいつたんだもの」「うそだあ、ありや昔の事ぢやないか」「うそぢやありませんよだ。それが証拠にはお尻のとこに大きな刀痕がついてらあ」と威張りました。

鶏は神様に夜明を知らせる事を仰付かつたのが嬉しさに、最初の夜、まだお月様がゆつくりと空を遊びまはつてゐるのに、時を作つて啼きました。それで朝日はびつくらして東の山から出ましたので、お月様はなごり惜しいけれどそれきり夜に別れました。それからといふもの、お月様は怒つて日が暮れると、鶏の眼を見えぬやうにしてしまひました。それで「とりめ」になりました。
ほつきよくぐまの　おかしさは
いつきて見ても　いや〳〵と
かぶりを振つておりまする。
パンをやつても　いイや　いや
肉をやつても　いイや　いや
かぶりふり〳〵食べました。
お婆さんの独言「おまへも世が世ならば、将軍様の御手にとまつて、昔は、富士の巻狩なぞしたものだが、今ぢや梟と一所にこんなところへか　るではないか、そんな怖い目はせぬものぢや」
太郎「らくだよ　らくだ
　なんておまへはなまけものなんだろう。
　のらくら　のらくらと一日なまけてゐるではないか」
らくだ「坊ちやん。私が好い見せしめです。
　あんまりなまけたので昔私の先祖は神様に撲られまして、ごらんの通り身体中瘤だらけになりました」
ある猟人が、山へ猟にゆきますと、何処からか鸚鵡の啼声が聞えます。声はすれども姿は見えぬ、猟人は途方にくれて「おまへはどこにゐる」と言ひますと「わたしはこ　にゐる」と答へた。猟人は、その無邪気な鸚鵡を可憐そうに思つて撃ないでつれてかへつて可愛


コドモのスケッチ帖
動物園にて

がつて飼てやりました。

するとその辺に住んでゐた太郎ぢやない、次郎といふ子供が、その鸚鵡を盗んでポツケツトへ入れました。

猟人は鸚鵡がゐないので「おまへはどこへいつた」と言ひますと、鸚鵡は子供のポツケツトの中で「わたしはこゝにゐる」と答へました。

鹿が小川の水の中に立つて、自分の姿を水に映して

「おれの角はなんて美しいんだらう。だが、この足の細いことはどうだろう、もすこし太かつたらなア」と独語を言た。そこへ猟人が来た。おどろいて鹿は逃げだした。細い足のおかげで走るわ、走るわ、よつぽど遠くまで逃げのびたが、藪のかげでその美くしい角が笹に引掛かつてとう〳〵猟人につかまつたとさ。

太郎は、エソップのなかの、或時ライオンが一疋の鼠を捕つたら、鼠が「おぢさんわたいのやうな小いさなものをいぢめたつてあなたの手柄にもなりますまい」つて言つたらライオンは「ハヽヽヽなるほどさうだ」つて許してやつた。するとある時、ライオンが猟人に捕つて縛られたとこへ例の鼠が来て「おぢさん、待つといで」と言つて縛つた縄を噛切つてやりました。つていふ噺を思出して「おぢさん、ライオンは馴たら鼠でも喰ひませんか」と動物園のおぢさんに聞きました。すると、おぢさんの答はこうでした「すぐ喰つちまふ」

太郎「だてふはいつも立つてばかりゐますが、夜ねる時でも立てますか」

動物園のおぢさん「夜はやつぱりしやがんで眠ります」

太郎「象は立つて眠るんでせう」

おぢさん「い　へ象もすわつて寝ます」

太郎「おぢさん河馬は汚いねえ」

おぢさん「なぜさ」

太郎「だつて皮の穴からなんだか赤い汁が出るんだもの」

おぢさん「でもあの汁がすきな鳥があるとさ。その鳥が来ると河馬はじつとして、あの毛穴の中の黴菌を鳥がとつてくれるのをまつてゐるんだつてさ。それがその鳥の食物なのさ」

太郎「汚い鳥だなあ、なんていふ名」

おぢさん「知らない」

太郎「おまへは何処から来たの」

キバタン「印度から来ました」

太郎「印度は黒坊ばかりゐるのかと思つたら、おまへのやうな白い鳥もゐるのかい」

キバタン「なあに、昔は黒かつたんですが、あんまり太陽の光がきついもんですからはげてしまつたんです」

動物園のおぢさん「ある時、白い夏服を着た巡査が、剣か何かでこの虎をおどかしたことがありました。それからといふもの白い服を着た巡査が来ると怒ります」

太郎「おぢさん、虎はよく覚えてゐますね」

おぢさん「一度そんなことがあると決して忘れません」

太郎「虎が客に向つて放尿してもおまはりさんは叱らないんですか」

おぢさん「虎がおまはりさんを叱ります」

驚きやすい白鳥よ。

何をそんなにおどろいて鳴くのだ。

青い澄んだ空には何もないではないか。

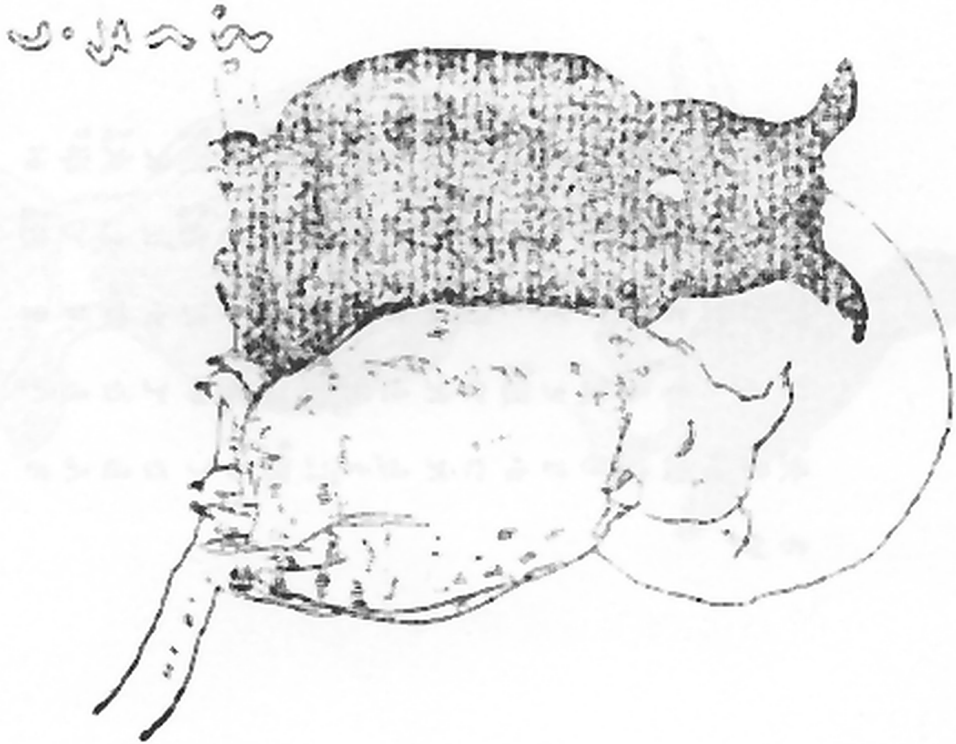


つる

白く淀んだ沼には何もゐはしないではないか。

いえ〳〵。青い空を
あれ、あんな化物雲がとびます。
深い水の底に、
あれ、あんな虫が匐ひまわつてゐます。
太郎「おぢさん熊が手を合せて拝んでるよ」
おぢさん「は　あ、可憐いものだなあ。動物園の中でも夜なんか熊が一番よく眠るつてね、嚊声が不忍池まで聞へるつてさ」

うさぎ



青空文庫情報

底本：「コドモノスケッチ帖　動物園にて」洛陽堂
1912（明治45）年2月24日発行
※近代デジタルライブラリー（http://kindai.ndl.go.jp/）で公開されている当該書籍画像に基づいて、作業しました。
※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の旧字を新字にをあらためました。
※「変体仮名ぞ」「変体仮名え」は、通常の仮名にあらためました。
※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。
※歴史的仮名遣いから外れた表記、仮名表記の不統一も、底本通り入力しました。
入力：土屋隆
校正：田中敬三
2005年10月1日作成
2013年4月23日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。



ذ



ねこ


ごにすごめ



ぽと

ON ET



にはとり



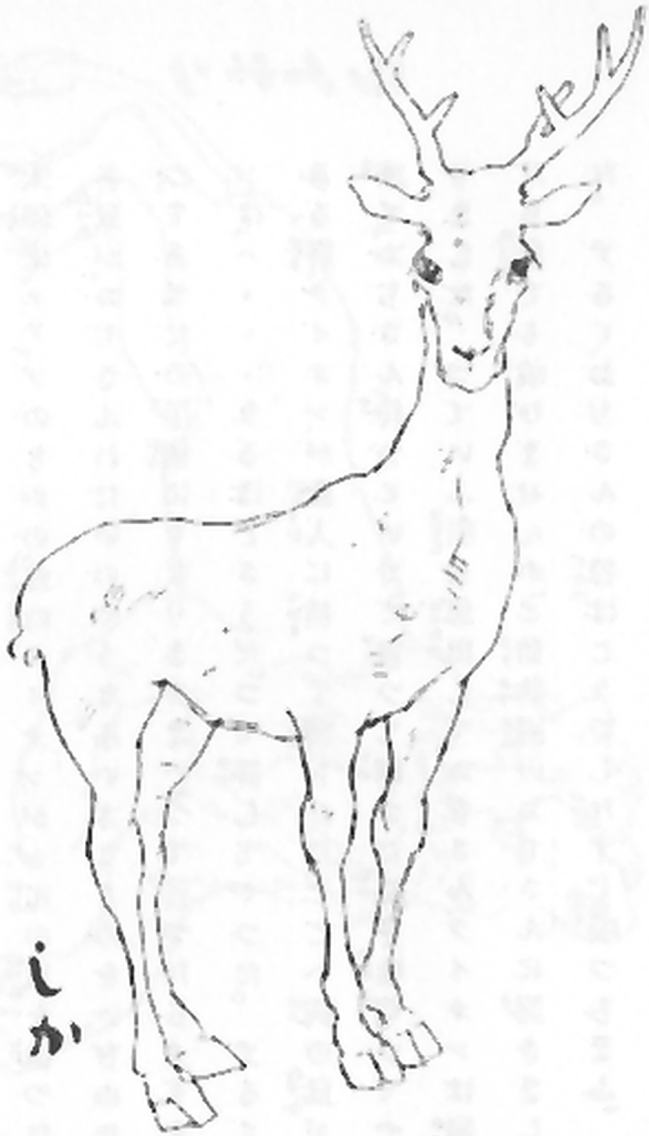
ほっきょくぐま





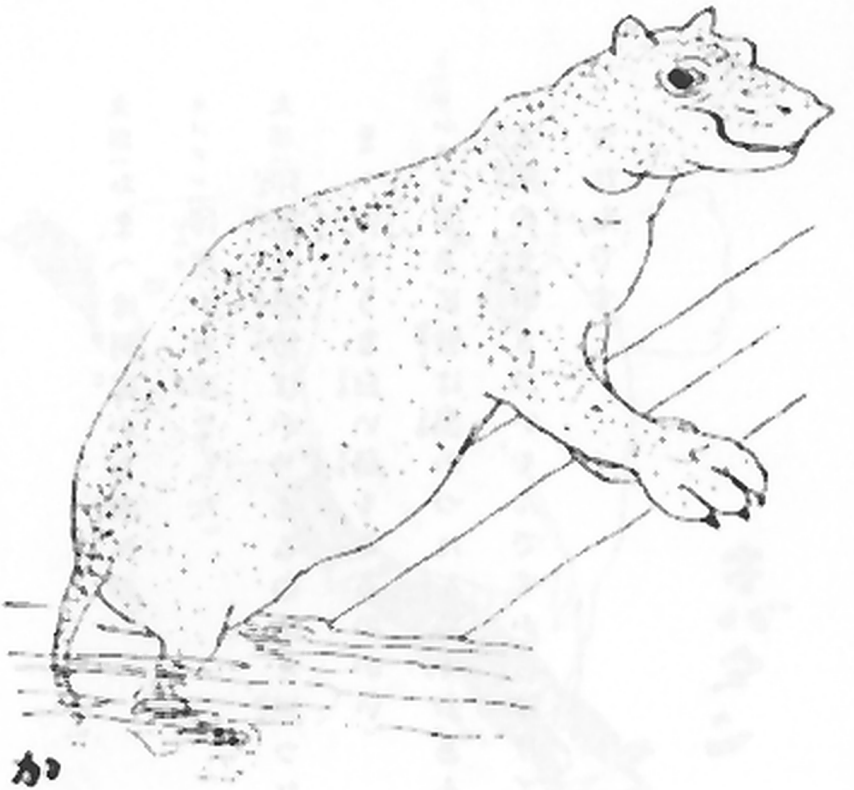
らくだ




しか



だてう



かば



ネバタン



ぼくてぃ




いぬ。

東京ラクヨウ堂

コドモノスケッチ帖

動物園にて

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　竹久夢二
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/